

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2013年9月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2013年9月1日発行 通巻245号(毎月1回発行)

ヒヤリハットから

学ぼう！！

9月号 目次

目次	2
花博士の花便り	3
新人山行報告・松戸山の会	4
被災地の現状と東北の山を訪ねる	5
カレンダー申込書・2014年	7
ROUSAN・パートナーズ 案内	8
山筋ゴーゴー テキスト紹介	9
すぐれもの紹介	10
「ゆう」便り NO-7	11
「ゆう」支援バスツアー 案内	13
支援物資のお知らせ	14
県連便り	15
8・9月予定表	16

表紙説明

ちば山の会は「東北の山と被災地を訪ねる」企画に8名が参加し、和賀岳山塊の高下岳に登った。計画段階では、和賀岳であったが連日の雨で、沢が増水し渡渉が厳しいとの判断で高下岳に変更した。登山口までは、車も入る登山道もある。今回は銀河高原から山毛櫨の原生林を辿るコースを行った。このコースは案内がなければ、とても登山口には行き付けない。現地ガイドの同行があったのでこのコースを選択した。此処は、熊も生活しているエリアだそうだ。さすがは、マタギの里です。

花博士の花便り

ふわくハイキングサークル 中原 紀代治

“レンゲショウマ” (蓮華升麻) キンポウゲ科レンゲショウマ属

8月17日会の山行で、御岳山へ、レンゲショウマを観に行きました。群生地は、ケーブルカーを降りると直ぐの処に有ります。猛暑の中でレンゲショウマの花は4分咲きで、丸い蕾が多く花は下から順に咲きます。花がハス(蓮)に葉が9月の末に咲くサラシナショウマ(晒菜升麻)に似ているところから名づけられました。群生地では、カシワバハグマ、オクモミジバハグマ(蕾)、ヤマジノホトトギス、モミジガサ、ソバナなどが一緒に咲いていました。その中でハグマ類の咲き方が面白い、後で咲いていたコウヤボウキも同じ咲き方です。ハグマとはヤク(ヒマラヤの牛)の尾毛のことで、幕末に指揮官クラスの軍帽として、薩摩藩・黒熊(コグマ)、土佐藩・赤熊(シヤグマ)、長州藩・白熊(ハグマ)で使用。カシワバハグマは、花の咲き方がハグマに葉がカシワに似ていることからの様です。御嶽神社の女坂にもレンゲショウマの花が咲いていますが雨が少ないので勢いがありませんでした、長尾平で昼飯のあと七代の滝まで下りました、タマガワホトトギスの黄色い花が残っていました。京都の玉川で見つけた名前の由来です。天狗岩に登って帰りに、珍しいジャコウソウも咲いてました。猛暑の中で、時期はずれの花など約30種の花が観られました。



レンガショマ (蓮華升麻)



カシワバハグマ



タマガワホトトギス



ジャコウソウ

新人平日山行 奥秩父・両神山 1723m

山行日：2013年7月18日(木)

参加者：CL大越直樹、SL佐々木瑞恵、鈴木知八子、藤正幸、池田ゆかり(記)

コース：新松戸5:40ー藤さん自家用車にてー両神山荘8:40

両神山荘8:55ー弘法乃井戸11:10ー清滝小屋11:25/11:45ー

両神山頂13:25/14:00ー清滝小屋15:35/15:50ー両神山荘18:10

交通費：高速代等 ￥3170/人

両神山は標高差1000m以上の山、山頂近くには鎖場もあるとのこと、私は山頂に辿り着けるのだろうか…と思っていましたが、どうにか無事に登りきることができました。

今回は7月で暑いので、30分登ったら5分休憩というペースで歩きました。ちょうど良いペースでした。しばらく登ると明るい樹林帯になり、沢の流れに沿いながらの登山になりました。沢の流れる音が心地よく、森の中はマイナスイオンたっぷりでした。途中に弘法乃井戸というものがあり、冷たい湧き水が出ていました。みんなで美味しく飲みました。

清滝小屋という所で休憩してから山頂までの道は、鎖場の連続でした。ここからは、まさに「初めての鎖場教室」でした。講師は大越さんです！



まずは①鎖のつかみ方です。両手でつかみたくりますが、万が一切れたりした時に危険なので、片手は鎖で、片手は岩を持つようにとのことでした。

そして、②鎖場での体の位置と足の置き方についてです。私は、岩に体をぴったりくっつけて登っていきこうとしました。しかしそれでは視界が狭くなり、次の一步の場所が見えなくなってしまうので、岩から少し離れて視界を広くした方が安全ということでした。また、岩にくっついていると靴が滑りやすく危険なので、岩から少し離れて体を起こした方が靴が垂直になり、安定するということでした。なるほど勇気を出して岩から離れなければと思いました。

そして、③次の足をどこに置くかよく考えて足を出すようにということでした。これは特に下山時の鎖場で実感しました。下りの鎖場は後ろ向きに降りているので、足場がよく見え、やや適当に足を出していました。これは危険でした。滑りました。しかし、教えてもらったように岩から離れてみると、足場が見えて、次の足をどこに置けばいいのかわかるようになりました。怖いという気持ちもやわらぎました。大越さんのご指導に感謝です。メンバーのみなさんは、鎖場でも身軽で、するすると降りていました。

鎖場が終われば山頂で、澄みきった青空と秩父の山々が広がっていました。岩場に腰掛けると、涼しい風が吹いてきて気持ちよかったです。ヒグラシの鳴き声、赤とんぼ、山頂はまるで秋のようでした。山頂でゆっくりしてから、下山も同じコースで戻りました。

最後になりましたが、藤さんの車&運転のおかげで、予定より3時間早く登山口に到着できました。大変感謝いたします！メンバーのみなさん、どうもありがとうございました！



被災地の現状と東北の山を訪ねる

ちば山の会 広木 国昭

2011年4月、震災直後の唐桑半島に栃木県連盟と千葉県連盟の仲間が集結した。文字通り押し取り刃で駆け付けた我々は、気仙沼市街に入りテレビで見たあの光景に出合った。真っ赤に焼け錆びた住宅、屋上に取り越された大型船舶、天井が落ち蛍光灯がぶら下がった海岸亭と駐車場に張ったテントが現地本部、食堂、仮眠場所であった。



破壊され流された住宅（鮎立）

鮎立（しびたち）地域の被災住宅の片づけ、ガレキノ撤去、新築の2階・天袋の衣装ケースを引き出した時、頭から海水を浴びた。津波の凄さと同時に悲惨な事を実感した。

あれから2年半が過ぎ、支援活動も大きく変わりボランティアの受け入れも大変複雑で難しくなっている。千葉県連盟は、「被災地に寄りそった」「息の長い活動」支援活動をめざし、2012年4月に、NPO法人「ちば労山ゆう」を立ち上げた。今後は、復興支援も含めてより被災地に密着した活動が要求される。

今回、新しい支援活動を探すためのお試し山行を実施しました。「東北の山の登山」と「被災地の現状把握」の欲張りプランを実施しましたので報告します。

【東北の名山紹介】

今回の山行計画は、・東北の山に被災地の人と登り交流をする。・ちば山の最初の支援地、気仙沼市内と唐桑半島の現状を見る。・復興した魚市場などで買い物支援をする。



高下岳登山口

登山は、和賀岳を予定したが豪雨の影響を考慮し、となりの高下岳に変更した。山毛櫸の原生林の登山道は歩き易く整備されている。今回は、唐桑半島の支援活動でお世話になった、気仙沼在住の登山ガイドの小野さんと盛岡山友会の上野さんに案内していただいた。この山域には、真昼岳・大荒沢岳・高下岳・和賀岳など山毛櫸の大木、高山植物が咲く、雪深いマタギの里です。登山口となる銀河高原にはホテルがあり、入浴も出来る。このホテルには、知る人ぞ知る「銀河高原ビール」があります。銀河高原は、ホテルと手打ちそばの店だけで、キャンプサイトの灯りを消すと真っ暗で、北斗七星の大きさ、天の川はまさしく銀河であり、人工衛星が銀河を横切るのが肉眼で見える。欲張りな貴女にふさわしく、流れ星が次から次、願い事は何回でも言える。マタギの里、和賀岳山塊と銀河高原にぜひどうぞ！



高下岳頂上

【気仙沼市・唐桑半島の現状】

2011年4月6日、大震災の脅威を残す気仙沼市街で見た光景が思い出された。今回は、気仙沼市街と支援活動を行った唐桑半島の鮪立漁港の現状を見る事が出来た。

・気仙沼市内は、津波に大火災が発生し、大型船舶が市街に取り残され、住宅の赤茶けた残骸が山のように積み重なっていた、市街のガレキは除去され基礎部分だけが残されている。

大型商店などは、復興して営業を行なっている。しかし、個人住宅は未だ、復興の見通しが立っていない。

被災地のシンボルとなり、連日見学者が来て、花が供えられている。

「第18共徳丸」も8月で撤去された。



第18共徳丸 8月で撤去された

・唐桑半島・鮪立漁港：岬に囲まれた小漁村は村内の多くを津波に破壊され、1.5m



棧橋前の防護壁

ほど地盤沈下した棧橋は、満潮時は海水に洗われていたが、現在もその状況は変わっていない。

棧橋前にパイル壁が打たれているが、海水はかつての住宅地に侵入して海水溜まりができています。

被害に遭った地域に住宅は建設されてなく、高台に新しい住宅が出来ている。被災者の多くは、まだ避難住宅での生活が続いている。避難住宅を出て新しい生活を始めるのは大変な事である。

復興への計画はあるのだが、予算や跡地問題を解決して、実際に動き出すのには時間が必要である。

当時、現地を訪れている人は、復興に向けて歩き出した現地を訪れて下さい。

街の雰囲気も明るくなっている。あれだけ打ちのめされても、人が戻り、生活が始まると多少の不便さはあっても人は明るくなるのだと感じた。



被害を受けた住宅跡

【今後の支援活動について】

震災から2年半たった現在、被災地の現状、支援活動は大きく変わっています。一例として、公的な予算、支援金の大幅な減少で現地ボランティアの維持が出来なくなり、支援者の受け入れ先がなくなっています。特に公的なボランティア組織の解散・縮小は支援者にとって大きな打撃です。一方では、支援バスツアーが種類を増やし好調です。また、一日1,000円以上の有料ボランティアも出現しています。高速道路の補助制度も3月で廃止されました。

復興・支援活動については、現地の現状をよく把握し、現地の皆さんは何を求めているのか、そして私たちは何が出来るのか、何をしたいのか、などを話し合い、常に新しい情報と新しい気持ちで取り組んで行くことが重要だと思います。

今年も。カレンダー申し込みの時期になりました。

全国連盟事務局に、直接申し込みをして下さい。代金は県連盟に支払い下さい。
(Eメールアドレス jwaf@jwaf.jp)

2014年版労山カレンダー申込書

地方連盟	千葉県連盟	
申し込み部数	発注部数 _____ 部	
名入れ	○希望する ○希望しない	
希望する名入れ等		
送付先	〒	電話番号
	住所	
	氏名	

- ◆ 問い合わせ先:千葉県連盟 ホームページ 事務局への問い合わせまで
: 千葉県連盟 会長 広木 国昭
(danphiro@zpost.plala.or.jp)

カレンダーの案内が遅くなったこととお詫びします。
名入れを希望する会は、至急全国連盟事務局に連絡をお願いします。まずは、電話を入れて下さい。
2014年版は、海外の山、日本アルプスの写真は入選していません。日頃見慣れない写真が採用されています。
早急に、会・クラブでまとめて申し込み下さい。

ROUSANパートナーズ(個人会員制度)ご案内

(個人会員制度)

ROUSANパートナーズとは、一人でも入れる登山の新しい組織です。

近くに山の会がない、山のパートナーがほしい、登山技術・知識を学びたい等に
応えられる組織です。あなたの身近な山好きに紹介して下さい。

会員になると

- ・安全登山サポートシステム。(本部に設置し係員が常駐)
計画書を提出し、入山・下山連絡により、本部が登山中の安全を確認しています。
アクシデントには、警察・救助隊への連絡、家族への対応を行います。
- ・遭難事故対策補償制度
遭難・事故の場合には、救助や捜索活動の実費経費、200万円を限度に補てんします。
死亡や入通院も、見舞金が支給されます。
- ・登山内で実施される、各種講習会・登山学校・に参加出来ます。学習ネット講座もあります。



ROUSANパートナーズ(個人会員制度)のホームページ
<http://www.yama-tomo.jp> にアクセスしてください。

千葉県連でも入会を受付けます。一人で山を楽しんでいる友人・住居近く
に山の会のない知人などに紹介してください。(千葉県連盟・広木まで)

千葉県連：ROUSANパートナーズへの問い合わせは

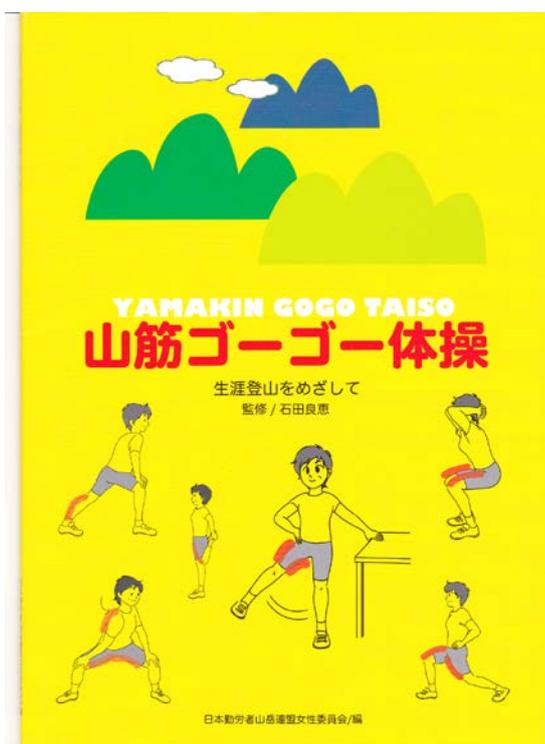
千葉県連盟ホームページ・事務局への問い合わせまで

女性委員会活動から生まれた

「山筋ゴーゴータイソ」改訂版が好評です

生涯登山をめざして

この山筋ゴーゴータイソを、会やクラブの例会や山行で励行されることをお勧めします。
この山筋ゴーゴータイソをきっかけに「あせらず、ゆっくり、前向きに」息長く登山を楽しみましょう。
(あとがきより)



石田 良恵 監修 (一部 200円)

石田 良恵 先生プロフィール

女子美術大学名誉教授 (保健学博士)・鹿屋体育大学客員教授・
「女性とスポーツ環境」「体脂肪を確実に燃やすエクササイズ90」など著書多数
往年のスプリンターで、現在はマスターズ陸上で活躍中
「東京都連盟会員」「全国連盟女性委員」

千葉県連盟でも好評で各会で利用しています。千葉県連盟用に50部用意しました。
問い合わせ・購入連絡先：千葉県連盟 広木 国昭 (danphiro@zpost.plala.or.jp)
各会で、有効に活用して下さい。

すぐれもの紹介

高尾山・景信山・陣馬山 登山詳細図

高尾山 1 : 5, 0 0 0 拡大図付き 全 8 2 コース



数ある登山地図の中でも、特別のすぐれ物を紹介します。

- 1、高尾山を中心にした登山コース82コースを表示している。
- 2、国土地理院発行の2万5千分の1を複製したもので、見慣れていて正確である。
- 3、全82コースを実際に歩いて、測定した距離(m表示) 所要時間を表示している。
- 4、高尾山エリアの拡大図を表示している。
(1 : 5, 0 0 0)
- 5、書店で購入すると 1, 0 0 0円ですが、
労山会員は 7 0 0円でお届けします。

作成・解説は：守屋 益男氏
(全国勤労者山岳連盟・前会長)

問い合わせ・購入連絡先：千葉県連 広木まで Eメール danphiro@zpost.plala.or.jp



安全登山ハンドブック 日本山岳ガイド協会 発行

このハンドブックは、すでに全国連盟より皆さんの会に送られていると思います。

- ・ 知っておこう、登山中 9つの危険
 - ・ 登山前 4つの点検
 - ・ 四季の自然を楽しむ山歩き
 - ・ 山の装備とウェア
 - ・ <http://www.mt-compass.com> 山と自然コンパス
初心者研修のテキストに最適です。
- ぜひ、各会・クラブで利用して下さい。



不足している会・クラブは 広木まで連絡を下さい。 danphiro@zpost.plala.or.jp

ゆう便り・No7

(福島県南相馬市小高地区支援活動)

かがりび山の会 山本 尚徳

日程 : 8月23日(金)夜~25日(日)

参加者 11名 : ふわく(5名)、かがりび(4名)、船橋(1名)、NPO会員(1名)

南相馬での支援活動は昨年8月に続いて2回目になります。

前回の参加者は7名でしたが、夏山シーズンの猛暑時期の今回も11名と若干増加も頼もしいです。車2台で柏発班の5名は18時に出発、船橋発班の6名は20時出発で途中道の駅で仮眠して南相馬の小高地区ボランティアセンターに翌朝8時に集合でした。柏班も時間を考慮してナビ案内通りに進行しましたが途中、想定外の車両通行止めで大きく迂回して45分過ぎて到着しましたがボランティア担当者の心得説明の延長で作業開始に充分間に合いました。ボランティアの参加者は24日114名、25日70名「ちば労山ゆう」は今回の作業は道路の障害物の撤去で軽トラックに発電機等の資材を積み込んでN邸に着きました。家に通



じるブロックの路肩が傾き家のリフォームに2t車の通行が困難との依頼があり早速、障害物の撤去と清掃に取り掛かりました。1日の作業予定でしたが、皆の結束とパワーでなんと1時間で完了してしまいました。依頼主さんには大変に喜んで頂き震災のお話しをお聞きしま

した。この地区は地震の被害も甚大でしたが、[原発事故で警戒区域に指定されていたのが、昨年の4月に避難指示準備解除区域に再編成され](#)、宿泊の許可はされず昼間のみ仮設住宅から通うのが許可されているそうです。お別れに握手をして頑張って下さいと何人かが励ましましたが、ボランティアセンターのMさんから①災害の事は相手が話す前に聞いてはいけない②「頑張って」の励ましは潰される位に頑張って人に言うてはいけない、と指導を受けました。最後まで見送りをして頂いたご主人の姿が目焼き付き私達の励ましの真意は伝わったと安心しました。

次の現場は病院敷地の樹木の剪定と雑草取りです。現在は使用していない広い敷地を 11 時から午後 4 時まで炎天下に汗を流して作業をしました。

剪定をしていた 2 名が蜂に刺されてボランティアセンターで手当てを受けましたが大事には至りませんでした。作業終了後に銭湯に入りスーパーで夕食を調達して宿泊先の東電グリーンパークに向かいましたが想像と違い継接ぎのプレハブでしたが健闘を褒め乾杯をして明日に繋がりました。



翌日はセンターから 5 キロ離れた S さん宅の雑草刈に向かいました。

お婆さんと娘さんが迎えてくれて話しをお聞きました。600 坪有る敷地はの 5 月に草刈をしたのに草丈が伸びてとても家人の手に負えないので要請したそうです。午前迄の作業でしたが全員必至に頑張り、途中 3 名の助っ人も加わり大方終了する事ができました。後片付けをしている時にお婆さんは気分が悪くなり倒れ込んでしまいました。80 歳のご高齢ですが熱中症と思われ救急車を要請して病院に搬送されましたが、その後が気掛かりです。



私は今回初めて福島県南相馬の原発被害地でのボランティア作業でしたが地震と放射能との二重の災害に合わせて未だに帰還出来ない方々からの行政、東電に対する憤りや不満をお聞きしてやり場の無い思いに心が痛みました。

私達のささやかな作業が少しでもお役に立てれば有難いと思います。

できる人が
できる事を
できる時に



東北支援 バスツアー

～ 被災された漁師さんを囲んで ～



宮城県の牡鹿半島は三陸リアス式海岸の最南端に位置し、水産業の盛んな土地柄です。そこでの水産業は、3.11の津波により全ての浜が流され、壊滅的な打撃を受けました。あの震災から3年目に入り、何もかも失った中から再び、漁師さんは明日に向かって懸命に歩み始めています。我々NPO ちば労山ゆうは、その牡鹿における水産業のお手伝いを通して、地元の漁師さんの生きるバイタリティーを間近に見、牡鹿の今を是非多くの方に知ってもらいたい、見てもらいたいと考え、漁師さんとの交流会を企画しました。被災当時のお話のみならず、牡鹿の水産業の有り様、現在の復旧・復興状況についてもお話いただける予定です。そして、毎月我々ゆうが現地においてどのような支援活動をしているのか実際に見ていただき、ゆうの活動へのご理解もいただければと思います。

東北人の信仰の拠り所であるみちのくの霊場・金華山の参拝も旅程に入っています。多くの児童・先生が亡くなった大川小学校、壊滅的被害を受けた女川町や南三陸町の被災地もめぐり、被災地の今をご自身の目で確かめていただくツアーでもあります。



日程：2013年10月19日（土）～20日（日）

参加費：20,000円（往復のバス代、宿泊費、金華山往復の船代）

募集定員：30名 *旅程は交通の事情等により変更する場合があります。

10/19	JR 千葉駅 NTT 前 6:30～牡鹿・谷川浜（ゆうの支援活動視察）～ 鮎川浜＝定期船往復＝金華山黄金神社参拝＝鮎川浜～小湊浜 民宿・ 後山荘（泊） <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 夕 * 19:30頃より後山荘において、地元の漁師さんを囲んでの交流会 （漁師さんの奥様による日本舞踊も予定しています）
10/20	被災地視察(女川町～雄勝～大川小学校～南三陸町さんさん商店街)～ 帰葉（20時頃予定） <input type="checkbox"/> 朝 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

主催：NPO 法人ちば労山ゆう

後援：千葉県勤労者山岳連盟

申込先：佐藤（tel/fax 047-379-2195

e-mail k-sato111@m9.dion.ne.jp)

角掛（tel/fax 043-233-1845

e-mail tsunojun@my.email.ne.jp)

9月の支援活動日 9月14日（土）・15日（日）・16日（月）

参加 問い合わせ・申し込みは <http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>

気仙沼支援・産直販売のおしらせ

千葉労山は、震災直後の気仙沼・唐桑半島に支援に入りました。その本部テントで偶然に食べた、震災前に生産された「とろろ昆布」の美味しさに感激しました。地元の前田商店は、商品はあるが震災で販売ルートが寸断され商売が出来ないとの事でした。私たちで、役に立つ事はないか？ 山の仲間では何か出来ないか？ 最初は、ちば山の会で現地支援として販売に取り組みました。その後、千葉県連の各会・クラブに支援の輪が広がり、各会が販売活動に取り組み、各種行事でも購入いただきました。現在は、NPO法人「ちば労山ゆう」の事業活動として定着して大きな成果をあげています。支援活動の交通費・食費などの補助に役立っています。今後も、被災地支援・「ゆう」の財政活動にご協力をお願いします。

支援物資の紹介



とろろこんぶ



すき昆布



おさしみわかめ



さしみこんぶ



くきわかめ

おさしみわかめ・さしみこんぶは、生商品です簡単に水洗いして水をきって、サラダなどがおすすめです。ポイントは、軽く水切りする事です。力まかせはダメ。くきわかめは、塩出しをして、油いためが人気です。私は、おかかと好みのドレッシングでビールは最高だ。とろろこんぶ・すき昆布は、軽くて美味しいです。山のメニューに一品加えては下さい。

会・クラブでまとめて連絡を下さい。10個位から発送します。40個・50個とまとめていただければ、気仙沼から直接発送します。

会行事・地域の行事などで、取り組んでいただけると心強い支援になります。

「ちば労山ゆう」は、被災地に寄りそった・息の長い支援活動を目指しています。皆様の、ご支援をお願いします。

連絡先：千葉県勤労者山岳連盟ホームページ：事務局への問い合わせ

: 広木 国昭 danphiro@zpost.plala.or.jp 090-8316-2020

県連たより

県連盟連絡先

- ◎ 千葉県勤労者山岳連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX： 043-306-1190
Eメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
(県連事務所に常駐者はいません)
- ◎ 千葉県連ホームページ
<http://www.cwaf.jp>
県連盟への問い合わせは、上記ホームページ
事務局への問い合わせまで
- ◎ 事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax：043-271-4704
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず
送付の事。
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
機関紙委員会・広木 国昭
danphiro@zpost.plala.or.jp
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東日本大震災・支援金振込み先
口座番号：ゆうちょ銀行
00240-8-98419
加入者名：NPO法人 ちば労山ゆう
代表者 吉田 哲治
- ◎ その他、県連盟、全国連盟への、ご意見
問い合わせなどは・広木まで

NPO法人「ちば労山ゆう」

- ◎ 「ちば労ゆう」への入会は
千葉県連盟ホームページからも
入会出来ます。
・入会申し込みは
<http://www.cwaf.jp/contact/10-2/>
・「ちば労山ゆう」への問合せは
<http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>
・入会情報（8月末）
正会員数 108名
賛助会員数 122名
合計 230名
常時、会員を募集しています。
入会連絡は、上記アドレスまで！
NPO「ゆう」支援活動のお知らせ
9月14日（土）～16日（日）
10月19日（土）・20日（日）
に実施します。
一人でも参加出来ます。
上記、問い合わせ先まで ！

引き続き取扱いしています

三陸産・気仙沼直送の

「おさしみわかめ」

「さしみこんぶ」

「くきわかめ」

「すき昆布」

「とろろこんぶ」

申し込み・問い合わせは、
下記までお願いします。

danphiro@zpost.plala.or.jp

090-8316-2020

県連活動予定表

9月	行事予定	10月	行事予定
1 日		1 火	県役員会
2 月	女性委員会・自然保護委員会	2 水	
3 火	県役員会	3 木	
4 水		4 金	
5 木		5 土	全国自然保護講座
6 金		6 日	〃
7 土	関東ブロック 役員交流会	7 月	女性委員会 17時
8 日	〃	8 火	
9 月		9 水	
10 火	ハイキング委員会	10 木	
11 水		11 金	
12 木		12 土	
13 金		13 日	東日本女性交流集会
14 土	「ゆう」支援活動	14 月	〃
15 日	〃	15 火	
16 月	〃	16 水	
17 火	救助隊定例会	17 木	県理事会
18 水		18 金	
19 木	県理事会	19 土	「ゆう」支援活動・支援バスハイク
20 金		20 日	〃 〃
21 土		21 月	遭難対策委員会・救助隊定例会
22 日		22 火	
23 月		23 水	
24 火	教育遭対委員会	24 木	組織委員
25 水		25 金	
26 木	組織委員会	26 土	
27 金		27 日	
28 土		28 月	「ゆう」役員会
29 日		29 火	
30 月	「ゆう」役員会	30 水	
		31 木	

発行者：千葉県勤労者山岳連盟

〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101号室

TEL・FAX 043-306-1190（事務所には常駐者はいません）

発行責任者：吉田 哲治

編集責任者：広木 国昭

問い合わせ先：千葉県勤労者山岳連盟ホームページ 事務局への問い合わせ